

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2262 号

Can we predict the existence of extrarenal feeders to renal angiomyolipomas?

腎血管筋脂肪腫の腎外栄養動脈の存在を予測することはできるか

張 茜茜 (ちょう せんせん)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、当科における、動脈塞栓術を行った 44 名の患者、58 個の腎血管筋脂肪腫を研究対象とした、後ろ向き研究である。塞栓術時の動脈造影画像、および塞栓術前後の CT angiography 画像を用いて、腎外栄養動脈の有無を検討した。腎外栄養動脈の有無で分けた二群の、被験者の特徴と腫瘍の特徴を比較した。58 個の腎血管筋脂肪腫のうち、29%が腎外栄養動脈あり、71%が腎外栄養動脈なしと同定された。腎外栄養動脈あり群は、なし群と比べ、腫瘍の体積および最大径が大きく、その差は統計学的有意差を示した。患者の年齢、結節性硬化症または散発性リンパ脈管筋腫症の存在、および腫瘍の位置に関しては、群間で差を示さなかった。腫瘍の最大径および体積は、腎外栄養動脈の有無を予測できる一方、その予測能力には統計的な有意差を示さなかった。腎血管筋脂肪腫 ≤ 6.5 cm、腎血管筋脂肪腫 6.6~10.5cm、および腎血管筋脂肪腫 > 10.5 cmの群における、腎外栄養動脈存在率は、それぞれ 0%、21%、および 79%であった。今回の研究結果からは、腎血管筋脂肪腫における腎外栄養動脈の有無は、腫瘍の大きさと関連し、患者の年齢、合併症及び腫瘍の位置とは関連を示してなかった。腫瘍の大きさが 10.5cm 以上の場合、腎外栄養動脈を有する可能性が高い (79%) ため、これらの腫瘍に関しては、不完全な動脈塞栓を避けるため、腎外栄養動脈の有無を確認する必要がある。腫瘍の大きさが 6.5cm、またはそれ以下の場合、腎外栄養動脈の存在率が 0%だったため、これらの腫瘍に対しては、腎外栄養動脈の有無を考慮する必要がない。結論として、本論文は腎血管筋脂肪腫の腎外栄養動脈の有無を予測する因子を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。